

石垣島で星見 日本で南十字星を見ること

ANAのマイルが有効期限切れに近づいてきたこともあり、これを活用して、2月15日~18日の間、西表島、石垣島に旅行にでかけました。実は、今年の冬は例年の南半球行きはお休みになっていたため、年に1度は南十字星！との思いもありの旅行となりました。

行程としては、西表島1泊、石垣島2泊で、いずれの宿も星が見えるロケーションを(それとなく)選定し、石垣島天文台の観望会にも行くという、見かけ上、まんま星屋コースでありました。(ちなみに星砂海岸も行きました。(笑)) 今回も、その旅行の中から星関係の部分について(のみ)紹介をいたします。

さて、これまでも、私用公用に拘らず何度か冬場に沖縄方面に出かけたことがあるのですが、全く天候に恵まれず星空を眺める機会はありませんでした。沖縄地方というとなんとなく太陽サンサンというイメージがあるものの、このような経験から、冬場の沖縄地方は意外に天気が悪いのかもしれないと感じていました。そこで試みに気象庁のサイトからデータを引っ張ってきて昼間の日照時間の割合を調べてみたところ、今回の旅行予定の2月中旬は日照割合が25%程度しかないことが判明しました。というより、南十字星の観望好期である冬から春にかけてはずっと天候の悪い状況が続く感じです。(夏は良いのですが…) 星見でなくても、旅行は晴れるに越したことはないのですが、さすがオフシーズンなりの理由があります。



かくして、天気予報も芳しくない中、初日に降り立った石垣空港は、土砂降りの雨でした。

そのような次第で初日の雨の西表島は省略して2日目の石垣島です。この日も曇り空で星空を観るのは悲観的ではあったのですが、夕方に石垣島天文台の観望会に予約をしておいたので、せめて望遠鏡本体(むりかぶし)だけでも拝んでおこうということで出かけました。

石垣島天文台は島の南西部の前勢岳の山頂にあり、毎週土日祝の夕方に観望会が催されています。観望会の予約をした人は車で一方通行の細い林道を通って天文台に上がり、隣接の駐車場で開催時間まで待機することになっています。天文台の周りにはそこそこの標高(197m)があるので、よい観測場所なりそうなのですが、うっそうとした森に囲まれているため相当に視界が遮られています。そんな感じの森の中の駐車場で曇り空の下待機していると、ほんの少しだけ晴れ間がのぞいて、普段見ているよりも高度の高いオリオン座やすばる(八重山の方言で「むりかぶし」)を見つけ緯度の低さを実感したりしましたが、星空はそれでおしまいでした。

やがて時間になり、案内された天文台では、まず天文台の設備などの紹介するビデオを観て、そのあとドームに上がって望遠鏡の説明を受けました。この天文台の望遠鏡は口径105cmということで、ぜひオリオン大星雲を見たかったのですがこれは果たせませんでした。

その後宿へ戻っても残念ながらわか雨は止まず、この日も安心して眠りました。



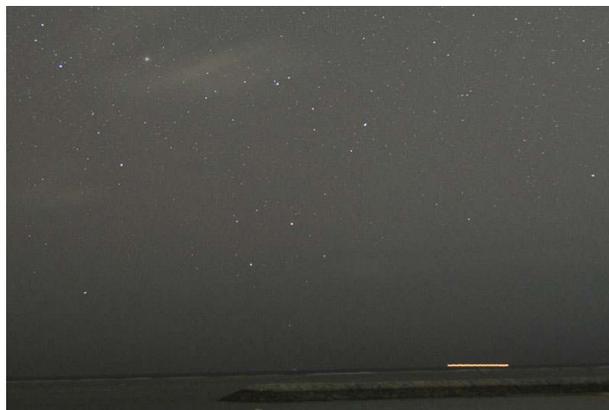
暗闇に浮かぶ天文台のドームとむりかぶし望遠鏡

さて、最後の3晩目になってようやく晴れ間が広がり始め、夕食の帰り道には高く上がったカノープスが見えるようになってきました。嬉しくなって、海岸に出てひとしきり南の方向を固定撮影したあと、本命の南十字星を見るため、目覚ましを4時にセットして一時就寝しました。

そして早朝。目覚ましで起こされ、今夜こそはと窓の外を見たところ見事に晴れ渡って中空に木星が明るく輝いていました。若干のモヤがあるのを感じましたが、これまでの天気のことを思えば何でもありません。カメラを抱えて海岸に出ると南天にからず座があり、その下に南十字座 γ 星が見えるのがすぐにわかりました。さらに目を凝らすと β 星も δ 星も見えましたが、雲が覆っているのでしょうか、一番南の α 星ははっきりとわかりませんでした。しかし写真を撮っているうちに雲が流れて、わずかの間でしたが星座を構成する主要な4星すべてを写

すことができ、念願の「日本で南十字星！」が達成できました。

そんな次第で、今回の石垣島では沖縄地方で初めて星空を観ることができた旅行となりました。ただ、マイルで航空券代がいらなかったにもかかわらずやけに出費が高んだのは誤算でしたが。



水平線の上に輝く南十字星（左上は ω 星団）

Books&CDs 宇宙関係のDVDを2本

偶然にも宇宙開発初期の時代を描いた2本の映画を連続してレンタルDVDで観ました。(著作権上写真はありません)一方は、邦題が適切でないとして一時物議を醸し、結局改題となったドリーム(*Hidden Figures*)であります。マーキュリー計画の頃に科学技術計算に取り組んだ3人の女性の物語で、背景にある性別や人種の問題を掘り下げつつ、(相当の脚色があるにせよ)コンピュータがようやく実用的に使えるようになり始めた頃の計算技術者の苦勞が面白く描かれていました。

もう一方は、SpaceWalkerで、旧ソ連ではじめて宇宙遊泳を行ったアレクセイ・レオーノフの

宇宙への道のりを描くロシア映画で、いわばソ連版のライトスタッフのような感じのノンフィクション物語で、これもとても良かったです。

個人的にはいずれのお話も実際にその出来事があった時代をリアルに体験しているという点で繋がっていて、子供の頃、深夜に布団から起き出して、映りの悪い白黒テレビでロケットの打ち上げを見ていた子時代を思い出しました。

それにしても、洋の東西を問わず、黎明期の宇宙飛行士の方は(今でもある程度はそうなのですが)本当に命がけだったのだと感じました。

編集雑記

西表島の西の端に子午線モニュメントというのが立っているというので見に行きました。海岸道路の脇に立つそのモニュメントは、随分と痛みが激しく、ビジターセンターらしき建物も改装中で、とても寂しい状況でした。ちなみに、何で「子午線」なのかというと、この場所を東経123度45分6.789秒の経度線が通っているからなのだそうで、いわゆるマジックナンバーでした。なんか微妙。。。ちなみにweb情報によると、このモニュメントは夜になると空に向かってレーザーを発射するらしいです。いやはや。

